

佐賀県佐賀郡神崎町方言における 身体感覚を表すオノマトペ

井上博文

はじめに

1. 調査地の概要；佐賀平野の北東部、県都佐賀市の北東に隣接し、米作を中心とする農業の町である。交通は、JR長崎本線神崎駅があり、バスも佐賀市、福岡市へ頻繁に便がある。最近は吉野ヶ里遺跡で有名である。
2. 調査年月日；平成3年10月3日
3. 教示者；(1)平井鉄次氏 (m.T.3) ^{#1}・平井フサ氏 (f.T.4①)、(2)土地人の女性 (f.T.4②)、(3)野田健太郎氏 (m.M.39)・福光ミエ氏 (f.M.41) ^{#2}
4. 調査者・調査場所；井上博文・(1)平井氏宅、(2)教示者宅庭先、(3)福光氏宅(商店)
5. 調査方法・調査時の様子；配布の調査票に基づく。
(注1、「男性で大正3年生まれ」を表し、女性は「f」、「M」は明治生まれを示している。同じ記号の人があれば①②で区別している。)
(注2、お二人だけから得た語彙は語の右上隅に「□^{*}」の記号を付した。)

I 全身の感覚

1-1. 快不快

スツ万イ 快。すっきりしたとき。精神上のことにも使う。○フ「ロ」ニ イッテ
スツ「カ」イ シタ。キモチ ユ「ー」 ナッタ。(f.T.4①)

サ^ーツパイ (サツパリ) 快。すっきりしたとき。精神上のことにも使う。スツ万イの方が方言的。

サバサバ 快。すっきりしたとき。精神上のことにも使う。稀。

1-2. 寒さ

ガタガタ 寒さや恐怖で震えるとき。

ブルブル 寒さや恐怖で震えるとき。○サム「カ」ニヤー。「サム」カテ ブルブル
フル「ー」 「ネ」。(f.T.4①)

ズンズン・ズント 風邪ひく前など背中に感じる悪寒。○カ「ゼ」ヒキヨッ コ「ッ」ジ
ヤイ シェ「ナカ」ノ「ズ」ント ス「ッ」。(f.T.4①)

ゾクゾク 風邪ひく前など背中に感じる悪寒。共通語的。

スース 背中に風が入るような寒さを感じる時。○アー サム「カ」 「スース」
ス「ッ」。(m.T.3)

1-3. 熱さ

ポッポ (ポーポ) 身体が暖まってきたとき。○「ポッ」ポ シテキタ パ「ー」イ。サム「
カ」トキニ サ「ケ」ノンデー「」ヌク「モッタ」ー。(m.T.3)

カッカ (カツカとも) ポッポよりも熱い。○アー「」モ サケバ チ「カッ」ト ノンデ
「カッ」カ ス「ッ」。(f.T.4①) ○カラダノ「カッ」カ ス「ッ」テ
ユー モン「ネ」。ネツノ「アッ」タイ ナン「カ」 ス「ッ」ギ。(f.M.41)

II 皮膚の感覚

ヒリヒリ 火傷や日やけのとき。

ベタベタ (ベターベタ、ベターンベタン) 汗がでてべたつく感じ。

モゾモゾ 虫が這いまわる感じ。

ジワジワ (ジワージカ) 異物が入って刺すような感じ。

チクチク 異物が入って刺すような感じ。

チクチク・チクツット 針や蚊・蜂が刺したとき。ギリツットの方が痛い。

カサカサ (ガサガサ) 肌が乾燥して荒れたとき。ガサガサの方が程度大。

ツルツル・ツルツット 肌のすべりのいい感触。○オンシェンニ ヨツテワ 'ネ'。

ホンニー ハダノ' コー ツ'ルツット ナツ'デ'シヨ。モー オケシヨ
ーシ'テ ク'リーム ツケタゴト 'ネ'。アラー ココノ オンシェン'ナ
'ホン'ニー ツルツル スツ'テ'モ 'ネ'。(f.T.4①)

ドレドレ (ドレードレ) 温泉などに入った後に肌がぬめる感じ。

ギリギリ (キリキリ)・ギリツット 切傷の痛みがひどいとき。ギリギリよりもギリギリが痛いことを表す。

ジーンツ しばれたとき。○ジーン'ト シ'テー シ'ビレタゴタ'ッ。(f.T.4②)

ズコズコ (ズコーンズコン)・ズコツ 腫物、できもの、切傷などの痛みがややおさまったとき。○ハジメ ギ'リギリ シヨツ'テ モー イタ'ミガ ダンダン
オ'サマツ'テ ズ'コツ'ズ'コツ' コー スルヨーナ 'バ'アイ アツテ
シヨ。ソ'ノ バアイ ズ'コズコ ス'ツ (m.T.3)

ズキンズキン 脈打つような痛み。

ズグーズク 神経痛などの痛み。

ジュクジュク 我慢できないほどの痛み。

ジュクジュク おできなどが汁がでているとき。

III 頭部の感覚

3-1. 頭

ガンガン 全体が割れるように痛むとき。

ワンワン ○ア'タマ'ノ ネ'ー。イ'トー' シテ ネ'ー。ワ'ンワン スツ' ヨー。
(f.T.4②)

ズキンズキン 奥の方がひどく痛むとき。頭が重い。

ズクズク ○ズ'クズク シ'テ イ'タ'イ 'ネ'。(f.T.4②)

ワッカ (カッワとも) 熱があるとき。

フラフラ 熱などで朦朧としてふらつくとき。○ネツガー タ'コ ナツギ ナト'ー
(高くなると) フ'ラフラー ス'ツ。(f.T.4①)

3-2. 顔面

ワッカ (カッワとも) 羞恥などで顔が赤く(熱く)なったとき。○アン'マ'リ ハズカ
シュー シ'テ マツ'キャ' ナツタ'ー。'カッ'カ ス'ル。(f.T.4①)

ホーツ 顔が熱くなるとき。

3-3. 目

シバシバ (シバツシバ、シバーンシバ) 目が乾いたとき。

チカチカ テレビを見過ぎたりして目が疲れたとき。

ショボショボ (ショボショボとも) (ショボーンショボ) 目が疲れて涙が出て、目が見えないとき。

コロコロ (コロコロとも) ゴミが入ったとき。○コ'ロ'コロ スッ パ'イ。'ナン' ジャイ 'ナン' ジャイ 'ヒヤートツ (入っている) パ'イ。(m.T.3)

ゴローゴロ コロコロより大きなものが入ったとき。稀。

3-4. 耳

ツーン トンネルの中で耳が圧迫される時。

ワフワン 耳の中で大きな音がするとき。

ジュクジュク (ジュクジュクとも) 汗がでているとき。

3-5. 鼻

ムズムズ (ムズームズ) くしゃみなどをしたとき。○カ'ゼ'- ヒータ パアイ ナン'カ 'ネ。ハ'ナノ' ム'ズムズ スッ。(m.T.3)

グヌーグス 鼻づまりのとき。

ツーント わさびを食べて鼻に抜けるようなとき。

グジグジ* 鼻水がでるとき。○グ'ジグジ ス'ン 'ネ。ハナノ。(f.T.4②)

3-6. 口

(口全体)

ネバーネバ 納豆など食べた後に口の中がねばるとき。

ベタベタ くっつく感じ。

(歯)

ズキーズキ (ズキンズキン) ひどく痛むとき。

ギリギリ 刺されるように (イギツタゴト) 痛むとき。

ツーント 瞬間的にしみる痛さ。○ミ'ズ クワイタ' (口に含んだ) ト'キャ 'ツーン'ト スッ'ヨ。(f.T.4②)

ズーント 虫歯の初期に冷たいものを飲んだとき。

チカチカ (チカチカとも) 刺すような軽い痛み。

ガツガツ (ガツガツとも) 寒さや恐怖で震えるとき。○ハ'ノ ア'ワンゴト'ー ガ'ツガツ ス'ゴ'トー サム'カ 'ネ。'キョー'ワ。(f.T.4①)

(舌)

ヒリヒリ 辛いとき。○コノ コ'シヨ'ン カラサニ ヒ'リヒリ シタ。(f.T.4①)

3-7. 喉

カラカラ (カラールカラ) 喉が乾いたとき。

ジワージカ 喉がえぐいとき。

ムズムズ 喉に違和感があるとき。

ゼーゼー 喉を痛めて息苦しいとき。

IV 胴体の感覚

4-1. 肩

動詞コッ (凝る) をもっぱら用いる。

4-2. 胸

ドキドキ (ドキドキとも) 驚いたり緊張したりするとき。

キューツ 悲しいとき。

ムカムカ (ムカ^ームカ) 気持ちが悪く吐きたいときや腹がたったとき。

○ム^カー^ムカ シテ ハ^ゴゴタ^ッ (吐きたい)。 (f.T.4①)

4-3. 腹

(空腹)

グーグー 空腹のとき。○ハ^ラ ヘッター。ハ^ラノ ^グー^グ ユー。 (f.T.4①)

(満腹)

ダブ^ーダブ 水や茶を飲み過ぎたとき。○アン^マー^リ ミ^ズ ノンデ^ー ハラノ

ダ^ブー^ダブ ス^ッ。 (m.T.3)

パンパン 食べ過ぎたとき。○パンパン ナッ^ゴト タ^ベタ ^ネー。 (f.T.4①)

(腹下し)

グルグル ガスがたまったとき。○ガ^スノ タ^マッテ ハラノ^ー グ^ルグル

ス^ル。 (f.T.4①)

グジ^ーグジ^{*} 腹の具合が悪いとき。○ハ^ラノ モ^ー グ^ジー^グジ シタゴタ^ッ。

(m.M.39)

4-4. 胃

シクシク (シク^ーシク、ジク^ージク) 何となく痛いとき。○イ^ーガ シ^クシク

ス^ッ。 (f.T.4①)

シユクシユク (ジユクジユク) 長く続く痛さ。

キリキリ 錐で抉るような痛さ。

4-5. 尻

ムズムズ 気持ちのあせる (シユク) とき。

モゾモゾ 落ち着きがなくなったとき。○シ^ンノ モ^ソモソ ス^ッ。ハ^ヨ カ^エ

ロ^イ。 (f.T.4②)

V 手足の感覚

(手)

ブルブル ふるえるとき。

(足)

ガクガク (ガク^ーガク) 疲れて立ってられないとき。○アシ^ノ ガ^クー^ガク

シテ イ^タカ ^ネ。 (f.T.4②)

(その他)

ヌルヌル (ヌル^ーヌル) ・ヌルツ 鰻などの手触り。○ウ^ナギデ^ーン ^ナンデン^ン

ナ ヌ^ルー^ヌル ス^ッ。 (f.T.4①)

ノレノレ (ノレ^ーノレ)・ノレット 鰻などの手触り。ヌルヌルの方がすべる。
 ニヨリニヨリ* (ニヨリ^ーニヨリ*、ノリノリ*) ヌルヌルより程度大。
 ニヨロニヨロ* (ニヨロ^ーニヨロ*、ノロノロ) ヌルヌルより程度大。
 ヌヌヌヌ (ヌヌ^ーヌヌ) ややねばり気がある。ナヌグジのようなもの。

VI 関節(骨)の感覚

ゴキゴキ 無理に関節をまげるようなとき。
 ギワギワ 膝などの関節が痛むとき。
 ワリワリ* 骨が折れるとき。

まとめ(いくつかの気付き)

(1) 語アクセントは、4拍語であれば○●●●となることが多いが、同じ語であっても○●○○となる場合も見られる。第二音節の母音が長呼されると○●●○○となる。

(2) 三回反復形態のものが注目される。多くは「〜デ」の形で程度の甚だしさが強調され(調子のよさも)ている。

○ワンワンワン¹デ アタマン イ¹トー シ¹テ。(m.M.39)

○モー イ¹トー シ¹テ。アシノ「ズクズクズク シ¹テ サ¹レン¹ ジャー。
 (m.M.39)

○ショショショ¹デ クダ¹ス。(f.M.41)

○フ¹ルート¹ヤ。「ガツガツガツ¹ ユー。(m.M.39)

他に三回反復のものとして、

雨降りの甚だしさ、○ア¹メガ「ザーザーザー フッ¹テ キ¹タ「ネ。(f.T.4②)

風の吹き込む甚だしさ、○ヒューヒューヒュー¹デ カ¹ゼン キ¹タ。ヒ¹ヤカー。

(f.M.41)

(3) 身体感覚を表す語彙として、他にイタガイガ(痛痒い)、ヒタルガ<ひもじい>、
 ゴツカ・エツカ(えぐい)などの形容詞を得た。名詞として、シギ^ー(シビ^ー) (しび
 れ、○ア^ー モ シ¹ギ^ーンシ¹テ「チョット ア¹シバ ヌ¹バサンナー¹イ(f.T.4④
))があった。

(いのうえ ひろふみ 広島大学文学部)